

マーケットレポート

🇺🇸 米国が追加利上げを決定 ～2018年は年4回の利上げ見通しに変更～

FRB(米連邦準備理事会)は6月12～13日のFOMC(米連邦公開市場委員会)において3月に続いて利上げを決定し、FF金利の誘導目標を1.75%～2.00%に引き上げました。【図1】

今回の利上げは市場では事前にほぼ織り込まれており、市場参加者の関心はFOMCメンバーによる政策金利見通し(ドットチャート)に集まっています。

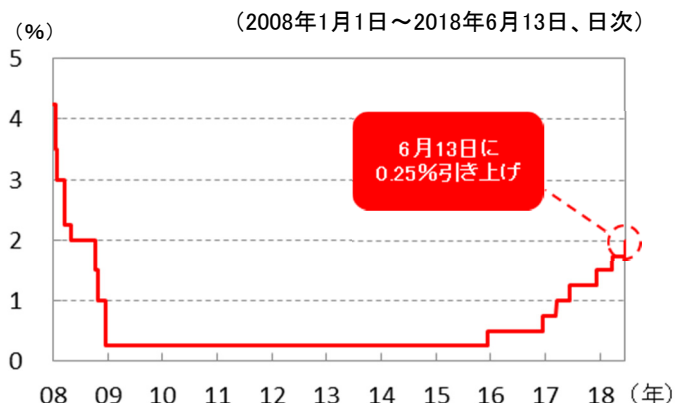
◆今年の利上げ見通しは年4回に引き上げ

FRBは、前回3月会合では2018年の利上げ回数(予想の中央値)を3回としましたが、4月以降の経済成長の回復見通しや失業率の低下、インフレの上昇などを背景に、6月会合では年4回に引き上げました。

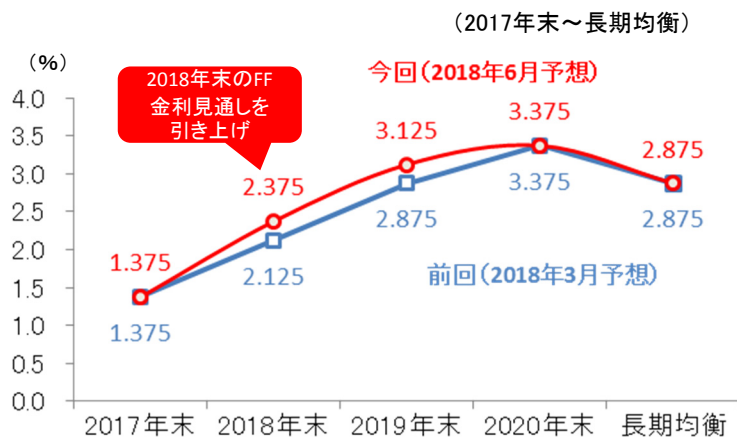
ただし、2020年までの利上げ回数については前回と変わらない結果となりました。

具体的には、0.25%刻みの利上げを前提とした場合、2019年は計3回(3月会合では3回)に維持、2020年は計1回(3月会合では2回)に引き下げており、結果として2020年末のFF金利水準は前回から変化はありませんでした。【図2】

【図1】 米国のFF金利の推移



【図2】 FOMC参加者の政策金利予想(中央値)



◆市場動向と今後の焦点について

FOMCの結果を受けた13日の米国市場では、利上げペースの加速を嫌気して株式市場はやや下落したものの、年4回の利上げについては織り込みが進んでいたことから、債券・為替市場は、概ね落ち着いた動きとなっています。【図3】

今後の焦点については、FRBが今回の金融政策正常化の局面においてFF金利をどの程度まで引き上げるのかという点に移りつつあります。

年内はあと2回程度の利上げが見込まれますが、2019年に入ってさらに2回程度の利上げが行われれば、FF金利はFRBが想定する長期均衡水準(景気を冷やさず過熱もさせない「中立金利」水準)にかなり接近することになります。

しかし、「中立金利」の水準は一義的に決められるものではなく、FOMC参加者の間でもかなり見方が分かれています。したがって、FRBとしては、まずは必要性が薄れた「FF金利は当面の間、長期的に通常とみる水準を下回るだろう」というフォワードガイダンス(将来の金融政策指針)を削除するとともに、先行き「中立金利」の水準を超えて利上げを継続するかどうかについては、景気・インフレの見通しなどを十分に踏まえながら、慎重に判断していくものと見られます。

【図3】 米国株式・債券・為替の動き

(2018年6月12日～2018年6月13日) ※カッコ内は前日比

	株式 NYダウ (米ドル)	債券 10年国債利回り (%)	為替 米ドル/円 (円)
6月12日 (火)	25,320.73	2.96	110.37
	(▲ 1.58)	(+0.01)	(+0.34)
6月13日 (水)	25,201.20	2.97	110.34
	(▲ 119.53)	(+0.01)	(▲ 0.03)

(出所)FRB、Bloombergのデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成

【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。